



新明小だより

学校教育目標 やさしく・かしこく・元気よく

～新たな挑戦 明るい未来へ 希望あふれる新明小学校～ 校長 稲村 浩之

東松山市立新明小学校
学 校 だ よ り
1 2 月 号
令和 7 年 1 2 月 1 日



校庭の木々が冬の装いになり、吐く息が白く見える季節になりました。

子供たちは、学習や行事を通して、一段とたくましく成長しています。一年のまとめの月として、温かい学校生活を大切にして感謝の心で過ごせる日々にしていきます。



～心をみがく ほうき～

むかしむかし、今から二千五百年ほど前のインドに「シュリハンドク」というお坊さんがいました。彼は、朝聞いたことを夜には忘れてしまうほど物覚えが悪く、自分の名前さえ覚えられませんでした。だから、背中に自分の名前を書いてもらい、人から聞かれると背中を見せて答えていたそうです。

そんな自分が情けなくなつて、ある日、お師匠様に「私はもうお坊さんをやめたいのです」と相談しました。するとお師匠様は、「何も心配はいりません。このほうきでお寺をきれいにしなさい」と言いました。

それから彼は、毎日毎日、何年も掃除を続けました。ある日、お師匠様がやってきて言いました。「ずいぶんきれいになりましたね。でも、まだ一か所だけ汚いところがあります。」シュリハンドクは不思議に思いました。「どこが汚いのでしょうか？」お師匠様は、にっこり笑って答えませんでした。その後も彼は「どちらう？」と思いながら掃除を続けました。

そんなある日、子どもたちが遊んで、せっかくきれいにした庭を汚してしまいました。

(12月のお話集会で児童に話しました)

思わずシュリハンドクは怒鳴りました。

「こら！ どうして汚すんだ！」

その瞬間、ハッと気づいたのです。本当に汚れていたのは、自分の心だったのです。心の中の汚れとは、「楽をしたい」「誰かのせいにする」そんな気持ちのことだと気付いたのです。

お師匠様は静かに言いました。

「これで全部きれいになりましたね。」

お掃除を一生懸命にすることは、勿論、その場所をきれいにすることですが、実は「自分の心もきれいにする」ということだったのです。

私が暮らしていたオーストラリアでは、子供たちは掃除をしませんでした。でも、私は思います。自分たちの学校を自分たちで掃除することは「心をみがく」素晴らしい時間だと。

そういう「心をきれいにする、心をみがく」ということが、実は将来、みなさんが大きくなる時に、とても大切になってくるのです。

12月の生活目標は「学校をきれいにしよう」です。ありがとうと言える心、だれかのために動ける心—そんな心を持てるように、学校も、自分の心も、ピカピカにしていきましょう。

心がつながった なかよし遠足～6年生の優しさに包まれて～

11月1日に、全校で「なかよし遠足（全校たてわり遠足）」を実施しました。1年生から6年生までの縦割り班でチームをつくり、秋の爽やかな風を感じながら市内の陸上競技場まで歩きました。広々とした競技場に目を輝かせ、武藏丘短期大学の先生方や学生さんの応援を受けながら楽しい時間を過ごすことができました。1年生からは、「6年生のお兄さん、お姉さんに優しく声をかけてもらったり、水筒を持ってもらったりして、嬉しい一日になりました。」との感想が聞かれました。

